

はままつじょうはっくつつうしん
浜松城発掘通信

№2

浜松市文化財課 2012年6月11日

浜松城跡 8 次の発掘調査が始まりました

2012年6月4日（月）から浜松城跡の調査が始まりました。今回は、天守門跡（てんしゅもんあと）の石垣上部と、天守門の基礎部分の南半分を中心に調査をしています。作業の様子を一部紹介します。

<天守門跡発掘調査の作業の様子>



作業前の様子です。今回の調査では、櫓台（やぐらだい）内側の土の堆積状況を確認します。



実際に調査する場所の位置を出した後、作業員さんが発掘道具を使って、手作業で掘っていきます。



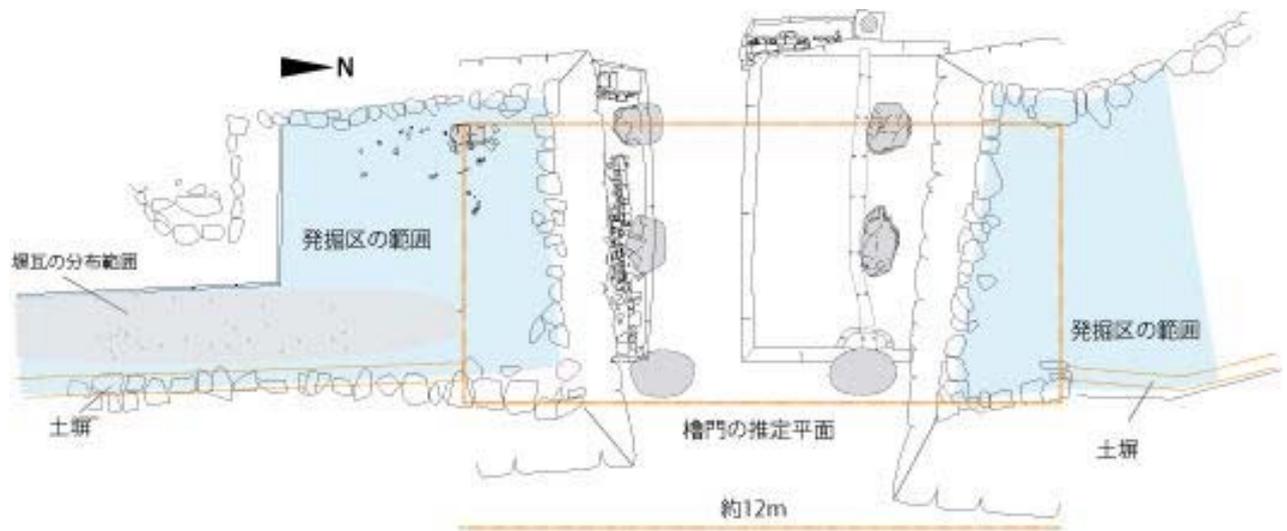
完掘すると、光学機器で形を記録したり、土層の堆積状況を図面にしたりして、記録をとります。



最後にアナログカメラを使用して、写真を撮った後、元のように埋め戻します。

過去の調査 浜松城跡 5次調査（2010年）より

天守門の構造



■天守門の調査成果

基底部分からは門の基礎にした礎石が、石垣の上部から礎石や瓦が検出できたことから、天守門は二階建ての櫓門（やぐらもん）であることが確認できました。二階部分の櫓の大きさは、検出した礎石と出土した瓦の位置関係から想定して、幅 12m程度の規模であったと考えられます。櫓の両脇からは、塀に使用する塀瓦が集中的に出土しており、天守門は、土塀がめぐっていたことも併せて確認できました。櫓門に葺かれた瓦の特徴から、天守門は安土桃山時代（16世紀末）に建てられ、その後も江戸時代を通じて改修が繰り返されたと推定できます。天守門は城内でも一際大きな建物であり、天守閣が無くなった後は、浜松城の象徴的な存在として維持されたとみられます。



天守門より出土した軒丸、軒平瓦

発掘調査現場は見学できます。

浜松城跡の発掘調査は、平日の午前9時から午後4時30分まで実施しています。作業時間内でしたら、発掘現場は見学できます。お気軽に担当までお問い合わせください。なお、雨天時や土日は、作業を休止します。作業時間以外の現場立入は、危険ですので、ご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

